

国立国語研究所学術情報リポジトリ

程度副詞使用実態の横断的・縦断的調査：
「通時話し言葉コーパス」の試み

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2023-11-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日暮, 康晴 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000118

程度副詞使用実態の横断的・縦断的調査 —「通時話し言葉コーパス」の試み—

日暮 康晴（筑波大学大学院生）[†]

A Cross-sectional, Diachronic Survey of the Usage of Adverbs of Degree: Possibilities of the “Diachronic Spoken Language Corpus”

HIGURE Yasuharu (Graduate School, University of Tsukuba)

要旨

本研究では『昭和話し言葉コーパス』（SSC）、『日本語話し言葉コーパス』（CSJ）、『日本語日常会話コーパス』（CEJC）を使用し、程度副詞「とても」とその類義語の使用実態についての横断的・縦断的調査を実施した。横断的調査の結果、SSC内の比較からは独話環境では「ひじょうに」の使用が特に多く、会話環境では複数の語が同程度使用されること、CSJ・CEJCの比較からは独話環境では「ひじょうに」、会話環境では「けっこう」、「すごく」の使用が特に多いことが分かった。縦断的調査からは、語によって使用傾向の変化に異なりがあり、使用頻度が高い語の中でも使用場面が狭まる語と広がる語に分かれることが分かった。また、主な使用場面が変化する語も確認された。使用場面が通時的に広がる語に注目した用例の検討からは、使用傾向の変化には類義語間の選択傾向の変化だけでなく、程度副詞の談話標識化という用法自体の変化が関わっていることが示唆された。

1. はじめに

本研究は、日本語の副詞、特に「とても」や「ひじょうに」といった被修飾語の意味を高精度に限定し示す類義語群（以下、「とても」類の語と総称する）に注目し、話し言葉の場面状況による使用実態の違いとその通時的な変化に注目して調査を行う。「とても」類の語は他の副詞と同様、文体や場面状況によって使い分けがなされ、加えて、これらの語群には新語の発生・流入が激しいという特徴がある（日本語教育学会編 2005）。その近年の例には「ちょう」や「めっちゃ」がある。新語の発生は若者言葉などくだけた語の使用として捉えられることが多いが、通時的な観点からは、新語・新用法の発生は単にくだけた場での言葉遣いに限らない。例えば、「とても」の「とても面白い」のような程度副詞としての用法は2023年現在では一般的に使用されるが、これは「とても食べられない」のような否定と共起する用法から転じて1920年ごろに発生したものであり、発生当時は「はやり言葉的な用法」（播磨 1993:15）であった（播磨 1993）。

このように、「とても」類の語の使用傾向の変化は、どのような場面で使用されるのかという横断的な要素と、それが時間の経過に伴いどう変化するかという通時的（縦断的）な要素を含み得るものである。本研究では、話し言葉データによって構築された『昭和話し言葉コーパス』（SSC）、『日本語話し言葉コーパス』（CSJ）、『日本語日常会話コーパス』（CEJC）の3コーパスを使用し、日本語話し言葉における「とても」類の語の使用実態の場面による異なりとその通時的な変化の調査を試みる。

[†] higure.j☆gmail.com（☆を@へ変更）

2. 先行研究

「とても」類の語を含む日本語副詞の使用実態についての研究は、現代語を中心に近年盛んに行われている。雑談場面に注目した中俣（2016）、石川（2020）では、共通して日本語母語話者は「けっこう」、「すごく」を高頻度で使うことが明らかになっている。また、独話環境内の場面の異なりに注目した日暮（2023）では、個人的な内容についての比較的くだけたスピーチでは「すごく」、「とても」が高頻度で、学会での研究発表では「ひじょうに」が高頻度で使われるといったように、独話環境という共通条件の中でも、さらにその中で詳細な条件の違いによって「とても」類の語の使用傾向が変わり得ることが明らかになっている。ただし、これらの研究は使用頻度の高い語に注目した分析が中心になっていたり（中俣 2016、石川 2020）、限られた数の語のみを対象にしていたり（日暮 2023）と、より広範な「とても」類の語の使用実態を調査する余地は未だ残されている。

加えて、通時的な側面の先行研究には「とても」に注目した播磨（1993）・吉井（1993）や、程度副詞の程度性の発生についてまとめた鳴海（2013）などはあるものの、比較的長いスパンでの語史的なものであり、また、その調査対象も書き言葉が中心であった。前述のように程度副詞、特に本研究が注目する「とても」類の語の使用実態の変化は比較的短期間の間に起こることが予想される。これまでの研究対象が書き言葉に限られてきたことはデータ収集（録音）が不可能だったなど技術的な面によるものが大きいですが、近年では後述する複数の話し言葉コーパスの整備によって横断的・縦断的両方の視点を備えた話し言葉調査が可能となった。

さらに、語の使用頻度の通時的な変化を分析するにあたって、使用の多寡のみならず、用法そのものの変化も予想される。孫（2018）では「すごく」のうち型式 [スゴイ] に、程度副詞としての具体的な意味が希薄化したフィルター的な用法が発生していることを指摘している。また、原田（2022）は「かなり」、「けっこう」に、被修飾語とされる語との間に統語的な距離があき、その用法もフィルター的なものが発生していることを指摘している。しかし、以上の研究は語の中の一型式や、類義語の一部に焦点を当てるにとどまっており、類義語内のどれくらいの範囲で同様の用法変化がみられるのかは明らかではない。語の使用傾向の変化を分析するにあたって、このような細かな用法の変化にも注目する必要がある。

本研究の研究課題は、RQ1「日本語話し言葉における程度副詞の使用傾向は発話環境によって異なりがあるか」、RQ2「日本語話し言葉における程度副詞の使用傾向の発話環境による異なりは、通時的に変化しているか」の2つである。RQ1については本稿執筆時期に近いCSJ・CEJCの結果に注目して分析を行い、RQ2はCSJ・CEJCの結果とSSCの結果との比較によって解明を目指す。

3. 調査手続き

3.1 使用コーパス情報

前述の通り本研究では『昭和話し言葉コーパス』(SSC)、『日本語話し言葉コーパス』(CSJ)、『日本語日常会話コーパス』(CEJC)の3コーパス(いずれも国立国語研究所によって公開)を使用する。これらのコーパスは日本語の話し言葉データによって構築されているという点で共通するが、データの収録対象となった言語使用場面や収録が行われた時期が異なっており、これらの比較を行うことで過去60-70年の中での日本語の横断的・縦断的調査が可能となる(丸山・小磯・西川2022)。丸山・小磯・西川(2022)は、このような日本語話し言葉の通時的調査に向けたSSCとCSJ・CEJCといった現代のコーパスの連結を「通時話し

言葉コーパス」(丸山・小磯・西川 2022;198)と呼ぶ。ただし、各コーパスの中でも録音された場面状況は複数あり、比較分析のためには、これらの条件を確認し、可能な限り統制を行う必要がある。各コーパスにおいてそれら録音における場面状況の異なりはタグ付け(SSC、CEJCでは「形式」、CSJでは「音声タイプ」)による分類がなされており、本研究ではより精緻な比較のために、独話・会話環境それぞれにおいて類似した内容のタグ付けがなされたデータを絞り込んで比較分析を行った。具体的には、SSCからは独話環境データとして形式〔講演〕、会話環境データとして形式〔雑談〕、CSJからは音声タイプ〔学会講演〕、CEJCからは形式〔雑談〕のタグが含まれるデータを使用した。以下、それぞれの詳細をまとめる。なお、「形式」(SSC・CEJC)、「音声タイプ」(CSJ)で示される場面状況を本稿では統一して「場面」と呼ぶ。

SSC 独話環境データとして選択した形式〔講演〕は、「創立記念講演会などにおける学術的な講演」(丸山・小磯・西川 2022;213)の録音データによって構築されている。録音された講演の内容は「現代の敬語意識」(M54_10_LT)や「明治初期の書きことば」(M58_12_LA)のようにすべて言語・日本語に関するものである¹。また、50名の話者のうち49名が男性、女性は1名と、話者の性差にも偏りがある(丸山・小磯・西川 2022)。SSC〔講演〕に対応するCSJの独話環境音声タイプは〔学会講演〕である(丸山・小磯・西川 2022)。CSJの〔学会講演〕は、実際に開かれた学会での研究発表の録音データで構築されている(国立国語研究所 2006)。SSC〔講演〕が言語・日本語に関するものに限られていたのに対し、CSJ〔学会講演〕学会は「理工学、人文、社会の3領域に及ぶ種々の学会」(国立国語研究所 2006;4)での研究発表である。次に、会話環境のデータとしてはSSC・CEJCの両方から型式〔雑談〕を選択した。両者は共通した基準でタグ付けがなされており、いずれも「会話の目的や話題などがあらかじめ定められていない会話」(小磯・土屋・渡部・横森・相澤・伝 2016;88)と定義付けられている(丸山・小磯・西川 2022)。

以上に挙げた、本研究で使用する3コーパスの4場面について、表1にそれぞれの収録年・語数情報を付してまとめる。

表1 使用コーパス情報

コーパス	調査対象場面	環境	収録年	総語数 ² (記号入り)
SSC	講演	独話	1955-1969年	122,287
	雑談	会話	1952-1960年	306,745
CSJ	学会講演	独話	1999-2004年	284,553
CEJC	雑談	会話	2016-2020年	1,661,228

表1に確認できるように、本調査で取り扱うSSC〔講演〕は15年間、〔雑談〕は19年間に収集されたデータである。また、CSJとCEJCの収録期間はそれぞれ5年程度だが、両者の間には約12-20年の開きがある。本研究ではコーパス間の比較を中心とし、これらのコーパス内での収録年の違いには着目しない。また、講演の個別の内容(SSC・CSJ)、話者の性

¹ 『『独話』(50ファイル)の一覧』(SSC_files_M.pdf) (2023.08.15最終閲覧)より。

² 使用したコーパス語数データの出典は本稿末に掲載する。

別 (SSC・CSJ・CEJC) についても本研究では分析対象としないため、頻度の調整などによる比較は行わない。

以後、本稿において SSC [講演] で得られた結果は「SSC [独話]」、SSC [雑談] で得られた結果は「SSC [会話]」、CSJ [学会講演] で得られた結果は「CSJ」、CEJC [雑談] で得られた結果は「CEJC」と呼称する。

3.2 調査対象語

本研究で調査対象とする「とても」類の語は被修飾語の意味を高程度に限定し示す語と定義されるが、その中には「とても」や「ひじょうに」のように類義語が多くある。本研究では同様の意味内容を表す類義語として飛田・浅田 (2019)、中俣 (2020) を参考に 18 語を選定し、加えて、近年、特に若年代に使用が多くみられる「めっちゃ」を加えた 19 語、「おおいに」、「かなり」、「きわめて」、「けっこう」、「ごく」、「しごく」、「ずいぶん」、「すごく」、「そうとう」、「たいそう」、「だいぶ」、「たいへん」、「ちょう」、「とても」、「なかなか」、「はなはだ」、「ひじょうに」、「ひどく」、「めっちゃ」を調査対象語とした。これらの語は程度限定という点で共通するものの、詳細な語感・ニュアンスのレベルでは、評価的な視点の有無など異なりがあることが先行研究で指摘されており (渡辺 1990 など)、まったくの同レベルで入れ替え可能な語ではない。しかし、本研究ではそのようなニュアンスも使用実態に影響するという立場から、それらの差異を踏まえて比較分析・考察を行う。

3.3 調査の流れ

コーパス検索アプリケーション『中納言』(国立国語研究所) を使用し、各コーパスにおける各調査対象語の用例検索・結果のダウンロードを行った。実際の口頭産出の中では、同じ語でも [トテモ] / [トツテモ]、[スゴク] / [スゴイ] / [スゲー] のように様々な型式で発話される。そこで、同語と認められる中での複数型式を一括して検索できるように本研究では語彙素検索を採用した。ただし、語彙素検索で得られる結果では各用例の用法は統制できない。たとえば、語彙素「凄い」による検索を行うと、本研究で分析の対象とする「すごく面白い」といった副詞用法の他に、「すごい本」という形容詞用法、「人としてのすごさ」という名詞用法など様々な用法を含んだ結果が得られる。本研究ではダウンロードした全用例の用法を確認し、その分類を行った。その結果、程度副詞用法の他に陳述副詞用法(「とても (+否定)」、「なかなか (+否定)」)、形容詞用法(「けっこうな」、「すごい」など)、連体詞用法(「かなりの」、「ちょう」など)、動詞用法(「そうとうする」など)、名詞用法(「すごさ」、「たいへんさ」など)、メタ用法、用法不明の 7 用法が確認された。メタ用法は、例 (1) のように、その語自体に注目し、言及する中で発話されたものである。用法不明は、言いよどみや言い直し、会話参加者の割り込みなどによる発話の中断を分類した。本研究では以上の程度副詞用法以外の用法は除去し、程度副詞用法のもののみを分析対象とした。

- (1) 「どうもとてもが変な位置になってしまっているということで」

(CSJ_A03M0016)³

³ 本稿では用例の掲載に際し、調査対象として注目する「とても」類の語に下線を付し、また、引用末にコーパス名および録音データ ID (「コーパス名_ID」) を記す。また、「とても」類の語の表記はひらがなに統一し、語の型式のゆれは各コーパス内の「キー」表記に準じる。

4. 結果と考察

本章では、まず全体での副詞使用数結果を示した後に、コーパス間の比較による分析及び考察を行う。分析・考察の順番としては、まず SSC [独話] と SSC [会話] の比較、CSJ と CEJC の比較によって横断的な分析・考察を行い、次いで、SSC [独話] と CSJ、SSC [会話] と CEJC の比較を行い、縦断的な分析・考察を行う。最後に横断的・縦断的な視点の双方を合わせた総合的な考察を行う。

4.1 全体における「とても」類の語の使用傾向

表2に、コーパス別の副詞使用数の集計結果をまとめる。3.3節で言及した語彙素内の異型式は合算した。各セルにはコーパス内で確認された実使用数である粗頻度と、各コーパス別に算出した調整頻度（10万語あたりの使用数）を示す。調整頻度算出には表1に示した総語数を使用した。

表2 コーパス別使用数集計結果（粗頻度・調整頻度）

	SSC [独話]	SSC [会話]	CSJ	CEJC
おいに	7 (5.72)	3 (0.98)	23 (0.69)	2 (0.12)
かなり	20 (16.35)	28 (9.13)	932 (28.05)	88 (5.30)
きわめて	13 (10.63)	2 (0.65)	101 (3.04)	0 (0.00)
けっこう	0 (0.00)	22 (7.17)	253 (7.61)	1534 (92.34)
ごく	10 (8.18)	14 (4.56)	72 (2.17)	1 (0.06)
しごく	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.03)	0 (0.00)
ずいぶん	6 (4.91)	165 (53.79)	94 (2.83)	99 (5.96)
すごく	0 (0.00)	118 (38.47)	132 (3.97)	2299 (138.39)
そうとう	10 (8.18)	67 (21.84)	28 (0.84)	70 (4.21)
たいそう	0 (0.00)	0 (0.00)	2 (0.06)	1 (0.06)
だいぶ	6 (4.91)	67 (21.84)	88 (2.65)	164 (9.87)
たいへん	24 (19.63)	40 (13.04)	211 (6.35)	17 (1.02)
ちょう	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.03)	238 (14.33)
とても	1 (0.82)	126 (41.08)	93 (2.80)	51 (3.07)
なかなか	13 (10.63)	55 (17.93)	125 (3.76)	91 (5.48)
はなはだ	3 (2.45)	0 (0.00)	6 (0.18)	0 (0.00)
ひじょうに	203 (166.00)	111 (36.19)	2798 (84.20)	17 (1.02)
ひどく	1 (0.82)	2 (0.65)	2 (0.06)	2 (0.12)
めっちゃ	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	570 (34.31)
合計	317 (259.23)	820 (267.32)	4962 (149.33)	5244 (315.67)

(カッコ内の調整頻度は10万語あたりの使用数)

表3に示した結果より、各グループにおける調査対象語全体の使用頻度はCEJC、SSC [会話]、SSC [独話]、CSJの順に高い。個々の語の使用頻度に注目すると、SSC [独話]では「ひじょうに」、SSC [会話]では「ずいぶん」、CSJでは「ひじょうに」、CEJCでは「すごく」がそれぞれのコーパス内での最頻出語であることがわかる。個別語の使用頻度については以下4.2節、4.3節で詳しく確認し、ここでは全体の傾向を述べるにとどめる。

全体の傾向として、通時的に会話環境の方が独話環境に比べて副詞が使用されやすいこと、また、SSC [独話] → CSJでは頻度が下がり、SSC [会話] → CEJCでは上がっていることから、通時的に会話環境では副詞の使用が増加し、独話環境では減少したとまとめること

ができる。ただし、SSC [独話] の内容が言語・日本語についての講演である一方で、CSJ の内容はより広い分野での学会発表である。SSC [独話] を構成する講演の中には、例 (2) のようにややリラックスした話し方も含まれる一方で、後者ではデータ量での比較など、そもそも程度副詞を使用しないような、より客観的な表現が使用されている⁴といったように、収録データの差異が結果に表れている可能性もある。

- (2) これはまあ効能書きを述べ立てようとするずいぶんいろいろな
ことがあるわけではありますが (SSC_M58_14_LA)

なお、全コーパス結果の合計値の中で使用率が 1%未満となる「おおいに」(35/11344 = 0.31%)、「ごく」(97/11344 = 0.86%)、「しごく」(1/11344 = 0.01%)、「たいそう」(3/11344 = 0.03%)、「はなはだ」(9/11344 = 0.08%)、「ひどく」(7/11344 = 0.06%) は以下の分析・考察の対象外とする。

4.2 横断的比較

4.2.1 SSC [独話] と SSC [会話] の比較

表 3 に示した結果より、SSC [独話] と SSC [会話] それぞれの調整頻度から作成したグラフを図 1 に示す。

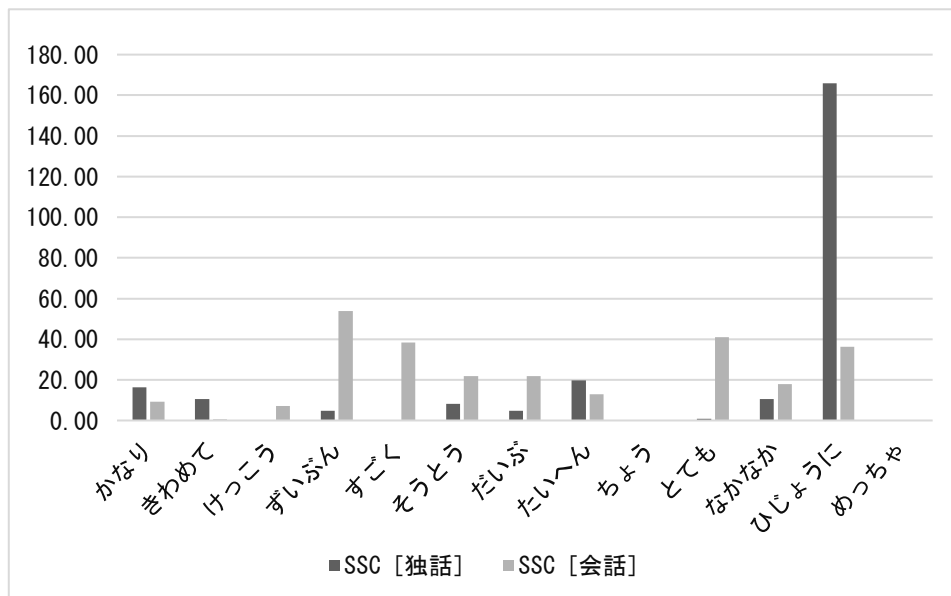


図 1 SSC [独話]、SSC [会話] における副詞使用頻度 (調整頻度より)

表 3 および図 1 の結果より、調査対象語合計の調整頻度は 259.23 (SSC [独話])、267.32 (SSC [会話]) と近似しているものの、語の分布という点では SSC [独話] では「ひじょうに」の 1 語に使用が集中しており、SSC [会話] では複数の語に使用が分散しているように、使用される語の傾向に違いがある。SSC [会話] で使用が比較的多い語には、多い順に「ずいぶん」、「とても」「すごく」、「ひじょうに」が挙げられる。特に「すごく」は

⁴ CSJ 内の独話環境音声タイプ間の比較を行った日暮 (2023) においても、音声タイプ [学会講演] では個人のスピーチである [模擬講演] や、専門家の非専門家に対する講演である [その他講演] に比べ程度副詞そのものの使用量が少ないことが報告されている。

SSC [独話] での使用はゼロ、「とても」の使用は1回のみ、「ずいぶん」は6回と、SSC [会話] で使用が多い語は SSC [独話] での使用が少ないという傾向が認められる。一方で、SSC [独話] で使用が多い「ひじょうに」は SSC [会話] でも使用がみられる。

以下、各語の用法を、特に使用頻度の高い語に注目してまとめる。

SSC [会話] の中で最も高頻度で使用が確認された「ずいぶん」は、例 (3)、(4) のように、話し手による実感を伴った (飛田・浅田 2019) 評価的な語感を比較的強く含む語である。

(3) あの頃はずいぶん注射が流行りましたね (SSC_C52_10_CT)

(4) ずいぶんあのきれいな方ですね (SSC_C52_12_CT)

次いで頻度が高い「すごく」、「とても」は例 (5)、(6) のように、話し手による実感に基づく点は変わらないが、「ずいぶん」に比べ評価の印象はやや弱い。

(5) 富士山がすごくきれいなね (SSC_C56_04_CT)

(6) (筆者注：病院の話) そして中はとてもきれいですものね
(SSC_C52_14_CT)

「ひじょうに」は SSC [独話] に限らず、SSC [会話] でも「すごく」の次に多い、全体では4番目に高い頻度で使用が確認された。例 (7) は SSC [独話]、例 (8)、(9) は SSC [会話] での「ひじょうに」の例である。会話環境では例 (8)、(9) のように、比較的あらたまった発話の中で使用される傾向にある。

(7) このコムは元来ヴァンダービークのこのお一百万語の調査でも
使用率がひじょうに高いものでありますが (SSC_M54_12_LT)

(8) (筆者注：身長の話) ええ今はね小学校の生徒なんかもひじょうに
高くなりました (SSC_C57_23_CT)

(9) 幼い頃外国語をやるときにいつでもあのイエスノーでひじょうに
苦勞するんですね (SSC_C52_20_CT)

4.2.2 CSJ と CEJC の比較

表3に示した結果より、CSJ と CEJC それぞれの調整頻度から作成したグラフを図2に示す。

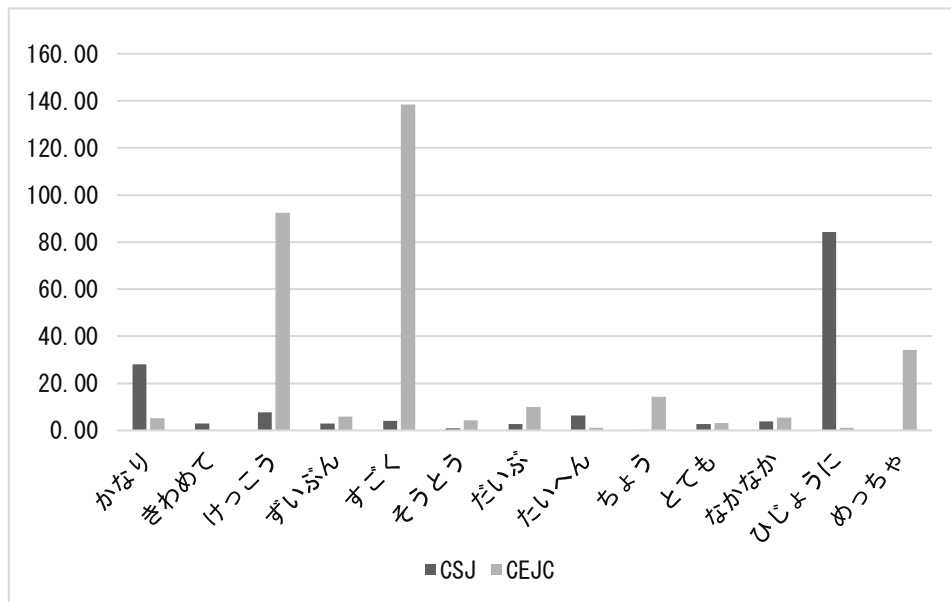


図2 CSJ、CEJCにおける副詞使用頻度 (調整頻度より)

表3 および図2の結果より、CSJとCEJCとではCEJCの方が副詞の使用頻度が高いこと、また、個別の語の使用頻度ではCSJは「ひじょうに」、「かなり」に、CEJCは「すごい」、「けっこう」、そしてやや頻度は下がるが「めっちゃ」に使用が集中している。

CSJ内で比較的高頻度の「ひじょうに」、「かなり」の例をそれぞれ例(10)、(11)に挙げる。この2語はいずれも客観的な表現という点で共通しており(飛田・浅田2019)、それゆえに研究内容の発表という場で使用が多く確認されたと考えられる。意味的な側面では、「ひじょうに」は基本的な程度限定の語、「かなり」は評価・比較の語感を含む語(飛田・浅田2019)という点で異なっており、話し手の含意によって使い分けられていると推定される。

- (10) これひじょうに曖昧な定義なんですけれども (CSJ_A03F0108)
 (11) かなり曖昧な基準なんです (CSJ_A04M0883)

CEJCで最も高頻度で確認された「すごい」、「けっこう」の例を例(12)、(13)に挙げる。「けっこう」は話者が抱く予想や基準に比べて程度が高いというニュアンスを含む(飛田・浅田2019)が、実際の例でも「すごい」に比べ話者の基準による評価というニュアンスが認められる。

- (12) すごい仲のいいお母さんらしいんだよ (CEJC_T021_010b)
 (13) けっこう仲よかった高校卒の子がいたから (CEJC_T017_016)

以上、CSJ、CEJCの結果及び用例の検討からは、CSJ・CEJCの期間においては基本的な程度限定の語として独話環境では「ひじょうに」、会話環境では「すごい」が選択され、話し手による評価・比較というニュアンスをより含ませる表現として独話環境では「かなり」、会話環境では「けっこう」が使われるといった使い分けの分布が示唆される。

また、CEJC内における「めっちゃ」は例(14)のように程度副詞としての用法自体は「けっこう」、「すごく」と変わらないものの、例(15)、(16)のようにくだけた会話での使用が比較的多く確認される。本研究では話者の年代に関して詳しい分析は行わないものの、10代、20代の若年代に使用が多くみられるという特徴も確認された。

- (14) それで入院してたらやっぱ看護婦さんとかもみんなめっちゃ忙しそう
 だった (CEJC_K002_012)
- (15) (筆者注：アトラクションの待ち時間の話)
 インディージョーンズめっちゃ長くない 死ぬくらい長い
 (CEJC_T018_006b)
- (16) 妹にウ彼氏がいるんだけどめっちゃマッチョなの (CEJC_T009_005b)

4.3 縦断的比較

4.3.1 SSC [独話] と CSJ の比較

表3に示した結果より、SSC [独話] と CSJ それぞれの調整頻度から作成したグラフを図3に示す。

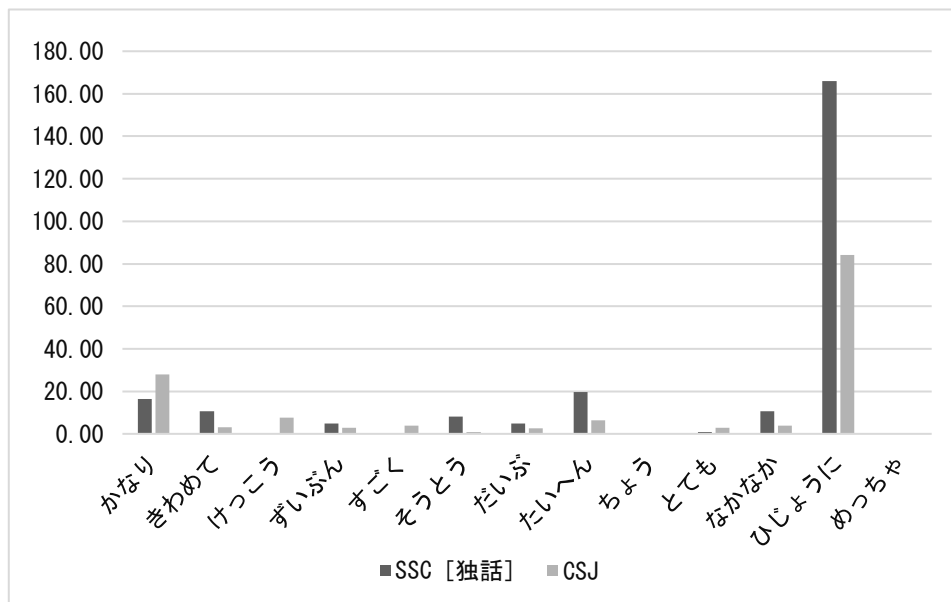


図3 SSC [独話]、CSJにおける副詞使用頻度 (調整頻度より)

SSC [独話] と CSJ とでは、「ひじょうに」が高頻度で使用されている点が共通している。ただし、CSJ での「ひじょうに」の使用頻度は SSC [独話] のおよそ半分と、「とても」類の語の使用全体が通時的に減少している。その原因には先述(4.1節)のように、講演と学会発表という録音された内容・場面の詳細な違いが要因のひとつとして挙げられる。また、全ての語が一樣に使用頻度を減少させているわけではなく、具体的には「かなり」、「けっこう」、「すごく」、「とても」は頻度上昇、「きわめて」、「ずいぶん」、「そうとう」、「だいぶ」、「たいへん」、「なかなか」、「ひじょうに」は頻度減少という傾向をみせる。使用頻度が上昇する語のうち「けっこう」、「すごく」は会話環境でも通時的に使用頻度が上昇している。これらの点については4.4節で総合的に考察を行う。

4.3.2 SSC [会話] と CEJC の比較

表3に示した結果より、SSC [会話] と CEJC それぞれの調整頻度から作成したグラフを図4に示す。

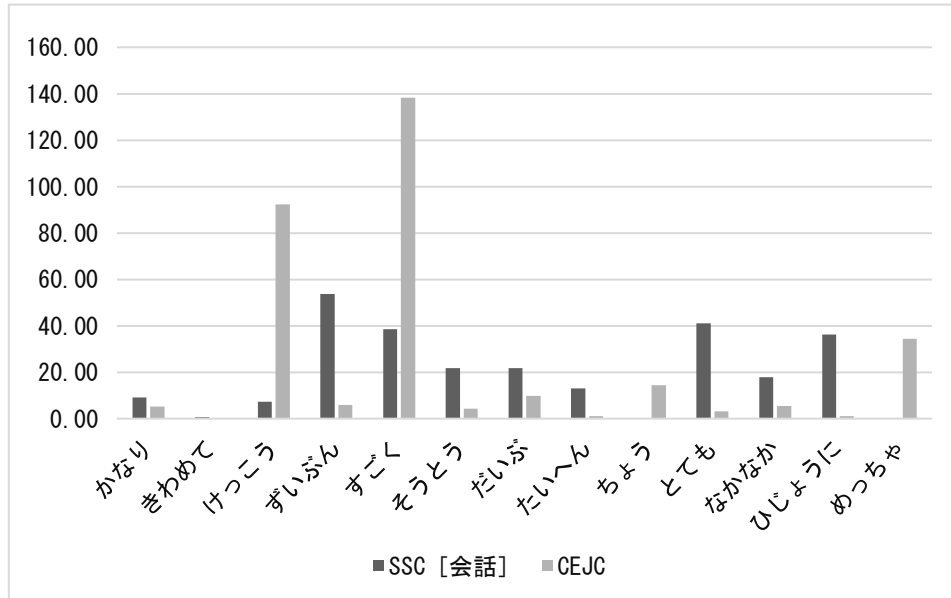


図4 SSC [会話]、CEJCにおける副詞使用頻度（調整頻度より）

SSC [会話] と CEJC の違いで顕著な点は通時的に「すごく」、「けっこう」への集中が進んでいることである。SSC [会話] では調整頻度が20を超える語には6語があるものの、最も高頻度の「ずいぶん」が使用頻度（100,000語あたり使用数）53.79回、次点で「とても」が41.08回、「すごく」が38.47回と、顕著に使用頻度が突出している語はない。それに対し、CEJCでは「すごく」が138.39回、「けっこう」が92.34回、3番目に多い「めっちゃ」が34.31回と、使用の多い語の使用が顕著に多い。CEJCにおいて使用頻度が20を超える語も、同3語のみとなっている。また、通時的に使用頻度が上昇したのも「けっこう」、「すごく」、「めっちゃ」に「ちょう」を加えた4語のみで、残りの8語は頻度が低下している。

SSC [会話] で使用頻度が最も高い「ずいぶん」は、CEJCでは大きく頻度を下げる結果となった。同様の評価的なニュアンスを含む語として、CEJCでは「けっこう」が高頻度で確認されたが、例(17)、(18)に挙げるように、両者を比較すると「ずいぶん」よりも「けっこう」の示す程度はやや小さく感じられる。

(17) ずいぶんいろいろあんのね (SSC_C52_11_CT)

(18) (筆者注：大阪・堺に様々な施設がある話)

堺ってけっこういろいろあったな (CEJC_T016_004a)

ここからは、会話環境においては話し手の持つ感覚による評価は抑えられ、聞き手にとっても同意・共感しやすい程度限定表現が優先されるように変化が起こったこと、また、話し手の感覚による評価的な表現が用いられる際には、比較的程度の低い、つまり、相手に共

感が得られにくい表現を避ける形で表現が選択されるようになったと考えることができる。

また、孫（2018）や原田（2022）に指摘されるフィラー的な用法について、SSC [会話] では被修飾語と離れて発話される例自体確認された数は少なく、その例も例（19）、（20）などのように、被修飾語との関係は例（19）は「すごい→困る」、例（20）「はずいぶん→変わる」と明らかである。

- (19) すごい陶器をさ入れるところがなくて困っちゃって (SSC_C52_19_CT)
 (20) だからはずいぶんそのジ時代のことを思うですと変わりました
 (SSC_C52_18_CT)

一方で、CEJC では例（21）のように被修飾語との間に複数の語を挟む例の他に、例（22）のように、ひとつづきの発話で複数使用される例が見受けられた。また、例（23）は「すごい→ゆわれる（言われる）」と、程度性を含む語という、「すごく」の被修飾語となる基本的な条件から離れた例もある。また、例（24）の「めちゃ」のように、先行研究で指摘される「かなり」、「けっこう」、「すごく」以外の語でも同様に確認される。

- (21) すごいなんかドイツの洗濯機発展してるみたいな (CEJC_K013_011)
 (22) かなりなんかニーどっかなイ富山とかわかんないなんかかなりだから
 遠くで一人暮らししないといけないとかいろいろ言ってる
 (CEJC_T010_013)
 (23) でしかもさすごいさ六月の初めに締め切りだってゆわれて
 (CEJC_K001_017)
 (24) めちゃ朝日がこうふーって出てくるのが真あの真っ正面に見える
 とこな (CEJC_T019_002)

孫（2018）、原田（2022）はこのような程度副詞の発展的な用法を語彙的意味が希薄化した、もしくは消失したものとして取り扱うが、これらの例を確認する限り、発話内容を強調して相手に伝えたいという話し手の意図は認めることができる。このような用法は、語に対する修飾という元の程度副詞としての文法的な要素が弱まり、発話全体に対して付される談話標識的な用法であると考えられる。

4.4 総合考察

本節では、以上の結果・分析をまとめ、「とても」類の語の使用実態変化について総合的な考察を行う。

まず、独話環境では「ひじょうに」に使用が集中することが SSC [独話]、CSJ に共通して確認された。ここからは、「ひじょうに」の独話環境、特に学術的な講演・発表の中で使用される語であるという特徴が認められる。さらに、「ひじょうに」は SSC [会話] では比較的あらたまった会話の中で一定程度の使用が確認されたものの、CEJC での使用は減少していた。ここからは、「ひじょうに」の独話環境語としての性格が通時的に高まっていることが示唆される。

会話環境では使用される語に集中が起こっており、特に「すごく」、「けっこう」が高頻度で確認された。これらの語は SSC [独話] →CSJ でも使用数が伸びているが、ここからは、

会話環境において高頻度で使用される中で、独話環境でも使用されるようになったという使用範囲の拡大が示唆される。この点は、独話環境語としての性格が強まった「ひじょうに」とは対称的である。第3章で確認したようにCSJとCEJCの間にも収録時期の差はあり、CEJCのデータはCSJデータの10～20年ほど後に収録が行われている。しかし、CSJとCEJCの結果の差から、日本語全体の中では会話環境での使用が独話環境に伝播したという可能性が高いと考えられる。

また、詳細な分析対象となった13語の中で、「とても」だけに、特徴的な使用傾向の変化が確認された。表3は、13語それぞれの独話・会話環境における使用頻度の通時的変化の傾向を「+」（上昇）または「-」（下降）で表したものである。「めっちゃ」は独話環境のSSC [独話]、CSJいずれにおいても使用が確認されなかったので当該欄は空白とする。

表3 使用頻度の通時的変化傾向（独話・会話環境別）

語	独話環境	会話環境	語	独話環境	会話環境
かなり	—	—	たいへん	—	—
きわめて	—	—	ちょう	+	+
けっこう	+	+	とても	+	—
ずいぶん	+	+	なかなか	—	—
すごく	+	+	ひじょうに	—	—
そうとう	+	+	めっちゃ		—
だいぶ	+	+			

+：通時的に上昇 —：通時的に下降

以上からは、ほぼすべての語が通時的に独話・会話で同様の使用傾向を見せる、つまり、それぞれの語の全体的な使用傾向は通時的に使われなくなる、または、使われるようになる、とまとめることができる。しかし、「とても」だけは独話環境で使用頻度が上昇し、会話環境で下がるといったように、主な使用場面に変化が起きている。「とても」の使用頻度は独話ではCSJで上から5番目で、会話でもSSC [会話]で上から2番目といったように、少数の使用の中で見られた誤差の範疇に含められる差異ではなく、明確な変化である。第1章で述べたように、はじめはやはり言葉として発生した程度副詞「とても」が会話で使用される語として通時的に一般化し、さらに時を経て、今度は独話場面という改まった場面で使用される語に変化していると考えられる。今後、同様の変化が「すごく」など別の語にも予想されるが、その解明には今後数十年の継続的な調査研究が求められる。

5. まとめ

本研究は、『昭和話し言葉コーパス』(SSC)、『日本語話し言葉コーパス』(CSJ)、『日本語日常会話コーパス』(CEJC)の3コーパスを組み合わせた『通時話し言葉コーパス』によって、「とても」類の語19語の使用実態の横断的・縦断的調査を行った。以下に、本研究で設定した研究課題への回答をまとめる。

RQ1「日本語話し言葉における程度副詞の使用傾向は発話環境によって異なりがあるか」に対しては、「独話環境では『ひじょうに』、『かなり』の使用が、会話環境では『すごく』、『けっこう』の使用がそれぞれ比較的高頻度で確認された。意味的に『ひじょうに』は『す

ごく』と、『かなり』は『けっこう』との対応が推察される」、RQ2「日本語話し言葉における程度副詞の使用傾向の発話環境による異なりは、通時的に変化しているか」に対しては、「独話・会話の両環境で変化が確認された。独話環境の中では『ひじょうに』が最も高い頻度で使用されることは通時的に共通するが、頻度自体は通時的に下がる。他に使用頻度が上昇する語もあるが、会話環境での使用頻度上昇に伴って使用が上昇する語・会話環境では使用されなくなり独話環境で使用が増える語など、傾向は語によって異なる。会話環境では特に『けっこう』、『すごく』、『めっちゃ』が使用されるようになり、その用例の中には談話標識化という程度副詞用法の変化を示唆するものも確認された」とまとめられる。

本研究の成果は、『通時話し言葉コーパス』によって日本語の横断的な異なりとその縦断的な変化を同時に捉えることができたという点にある。今後は「とても」類の副詞や副詞以外の言語項目についての同様の調査研究、さらに、本研究で得られた結果と今後収集される未来の日本語データとの比較による継続的な調査分析もまた期待される。

謝 辞

本研究は、2021年度尚友倶楽部筑波大学日本語教育研究者育成奨学金およびJST 次世代研究者挑戦的研究プログラムJPMJSP2124の支援を受けたものです。

文 献

- 石川慎一郎（2020）「発話における副詞の使用」迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬編『日本語学習者コーパス I-JAS 入門』くろしお出版, pp.167-184.
- 小磯花絵・土屋智行・渡部涼子・横森大輔・相澤正夫・伝康晴（2016）「均衡会話コーパス設計のための一日の会話行動に関する基礎調査」『国立国語研究所論集』10, pp.85-106.
- 国立国語研究所（2006）「日本語話し言葉コーパスの構築法」『国立国語研究所報告』124
- 孫琦（2018）「『すごいきれい』はほんとうに『すごい』のですか？」遠藤織枝（編）『今どきの日本語 変わることば・変わらないことば』ひつじ書房, pp.33-46.
- 中俣尚己（2016）「学習者と母語話者の使用語彙の違い—『日中 Skype 会話コーパス』を用いて—」『日本語／日本語教育研究』7, pp.21-34.
- 中俣尚己（2020）「主成分分析を用いた副詞の文体分析」『計量国語学会』32:7, pp.419-435.
- 鳴海伸一（2013）「副詞における程度的意味発生の過程の類型」『国立国語研究所論集』6, pp.93-110.
- 日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店.
- 原田朋子（2022）「日本語の発話における副詞の意味・機能の弱まりに関する一考察：テキストマイニング手法と目視による分析を通して」『同志社大学日本語・日本文化研究』19, pp.1-28.
- 播磨桂子（1993）「『とても』『全然』などにみられる副詞の用法変遷の一類型」『語文研究』75, pp.11-22.
- 日暮康晴（2023）「日本語母語話者による程度強調副詞の使用実態—『日本語話し言葉コーパス』調査より—」『小出記念日本語教育学会論文集』31, pp.25-40.
- 飛田良文・浅田秀子（2019）『現代副詞用法辞典 新装版』東京堂出版.
- 丸山岳彦・小磯花絵・西川賢哉（2022）「『昭和話し言葉コーパス』の設計と構築」『国立国語研究所論集』22, pp.197-221.
- 吉井健（1993）「国語副詞の史的研究：『とても』の語史」『文林』27, pp.1-30.
- 渡辺実（1990）「程度副詞の体系」『上智大学国文学論集』23, pp.1-16.

URL

〈コーパス〉

中納言 – 国立国語研究所

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/> (2023.07.04 最終閲覧)

『昭和話し言葉コーパス』(国立国語研究所)

中納言 2.7.0 データバージョン 2022.02 (2022.12.08 取得)

『日本語日常会話コーパス』(国立国語研究所)

中納言 2.7.0 データバージョン 2022.03 (2022.12.08 取得)

『日本語話し言葉コーパス』(国立国語研究所)

中納言 2.7.0 データバージョン 2018.01 (2022.12.08 取得)

〈コーパス語数データ〉

『昭和話し言葉コーパス』関連データ(2022年7月20日取得)

(語数集計には「morph_SUW」フォルダ内各短単位データ使用(筆者集計))

(<https://ssc-data.ninjal.ac.jp/course/view.php?id=3#section-0> よりダウンロード可能)

『日本語話し言葉コーパス』語数表(Version 201803)(XLSXファイル)

(2022年10月21日取得)

(<https://repository.ninjal.ac.jp/records/3278> よりダウンロード可能)

「CEJC 語数表」(7_cejc_suw_wc.xlsx)(XLSXファイル)(2023年4月21日取得)

(<https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc/cejc-wc.html> よりダウンロード可能)

〈その他コーパス情報〉

『独話』(50ファイル)の一覧(PDFファイル)(2023年8月17日確認)

(<https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/showaCorpus/> よりダウンロード可能)